



SERIES-3 「遣唐使」活動レポート

「子どもネットワーク自然体験村」に参加して

北原剛輔 「遣唐使」副代表
京都学園大学生涯学習研究会

長い大学の夏期休暇を利用して、遣唐使のメンバーで何かボランティアに参加しようと考えている暇中、以前から交流を持たせていただいていた滋賀県草津市の「NPO法人子どもネットワークセンター天気村」の村長の山田さんから連絡がありました。キャンプカウンセラーのボランティアの依頼を私たち「遣唐使」に頂いたので、早速メンバーの中から参加者を募り、八名ほどが都合のつく日に参加することとなりました。

「子どもネットワーク自然体験村」(平成十三年度文部科学省委嘱事業)これがキャンプの名称なのですが、期間は最短では日帰り、最長となると十三泊十四日という長期にわたるもので、この名の通り自然に囲まれ、自然と向き合い、自然を感じ、自然に触れて、自然に気づくというものでした。参加した子どもたちは保育院児から小学生で、友だち同士や個人など参加の形はさまざまでしたが、初対面の彼らが打ち解けるのにそう時間はかかりませんでした。しかし、子どもたちは大人と違って、自分の個性というもの

を抑えることなく存分に発揮してくれました。なので、衝突することも決して少なくはなく、むしろ、ケンカがない日はないくらいでした。

当初は対応に往生していた私たちも、日を追うに連れてそれらしい対応ができるようになりました。また、長期間であるため、ホームシックの心配をしていましたが、キャンプの全日程に参加した十名ほどの子の中で結局ホームシックになった子はおらず、これも子どもたちが友だちとなり互いに支えあえた結果だと思えます。

キャンプは十四日間と大変ゆとりがあったため、いろいろな活動をするこ



地域のおばあさんに(替)田植えのお話を聞く

ろん、森林の散策、冒険にチャレンジし、自然素材を使ったものづくり、歴史散策、地域住民の方との交流、環境調査、農業体験、国際交流等々、あげきれないほどたくさん体験をしました。

具体的には、自分たちで鋸や鉋を持ち竹藪から竹を切ってきて流しそうめんをしたり、石に絵を描いたり木片を組み合わせた、その土地のおいしいさ

子どもたちは何か一つ体験するそのたびに、楽しさや喜び、優しさ、逞しさ、豊かな感性、生きる力、ちよつとの勇氣などを得て成長していくので、その変化には本当に驚かされました。互いに協力し、助け合い、創意工夫を重ねて何かを成し遂げる。もちろん、このような一つ一つの活動が子どもたちにとって非常に貴重な体験であったことは言うまでもありません。

しかし、彼らにとって仲間やスタッフ、ボランティアと何気なく過ごしていた時間というものもまた大切な時間だったのではないのでしょうか。私たちこ

うか。最終日に彼らがもらった賞状とメダルと胴上げはきつと宝物になるだろうと信じています。

今回のキャンプに参加させていただき、私たち大学生も得られたものが多かったように思います。普段、小学校でボランティアをさせていたたこととはあるのですが、それとはまた違った体験でした。また、同じボランティアやスタッフとして参加された同世代の方々とも意見交換をすることができました。できることならまた参加したい、と思えるキャンプでした。



稲刈りの様子

竹うた
たたき
切った
が、津食
ちが、昼
分た、お
自使を
めめん



生涯学習研究会「遣唐使」
TEL: 077-2929247
京都府京都市
我部町南条大台1-1 京都学園大学
人間文化学部生涯学習研究会内